
知りたい気持ち

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

知りたい気持ち

【Nコード】

N3303L

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

甘酸っぱい青春のページ。

前作【こつちを向いて】の続編です。まずは前作をお読みください。

<http://nksyosetu.com/n26591/>

今回は男の子目線。

ではお楽しみくださいm()m

なあ、なんでお前は俺といるの？

いつもの昼休み。

学校の屋上には俺たち以外いない。

「また？懲りないね」

飽きれ顔で溜め息までつくのは俺のダチの中で、唯一の女の子のキミ。

口ではズケズケ言うくせに、腫れた頬を冷やすよう氷を用意してくれている優しいやつ。

「もうやめなよ。女の子が可哀想」

だよな。酷いことしてるのは分かってるよ。

特に優しいキミには、俺は最低な男として映ってるだろう。

けれど

ならなんでキミは俺といるの？

こんな最低なやつ見放されても仕方ないのに。

なのになぜ、キミは側にいてくれるんだ？

「私しかいないでしょ？こうやって慰めてあげれるの」

小さな子供にするみたいによしよしと頭を撫でながらキミは笑う。

他のやつにされたらキレかねないけど、キミにされたら嫌じゃない。

キミだけなんだ、俺が興味がある女の子は。

だから他のやつらなんてどうでもいいし、興味がない。

なあ、自惚れてもいいのかな？

キミが側にいてくれるのは少なくとも俺を嫌いじゃないって。好意を少しでも持ってくれてるんだと。

(後書き)

すみません、まだ続きます

次が最後になるかと…
頑張ります…

ここまでお読みいただきありがとうございますとございました。
また次回お会いしましょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3303/>

知りたい気持ち

2011年1月16日07時13分発行